

日時 令和元年 7 月 5 日（金曜日）
14時から16時まで
場所 都庁第二本庁舎10階209会議室

令和元年度緑のボランティア活動に関する指導者育成委員会
(第1回)

会 議 次 第

1 開 会

2 報 告

緑のボランティア指導者育成講座概要

- ・資料1 緑のボランティア指導者育成講座概要

平成29年度の講習実績報告

- ・資料2 平成29年度基礎講習内容
- ・資料3 平成29年度基礎講習の見直しについて
- ・資料4 平成29年度基礎講習受講者について
- ・資料5 平成29年度専門講習内容
- ・資料6 平成29年度専門講習の見直しについて

3 議 題

(1) 次回の講習内容

- ・資料7 受講者の推移と受講意向
- ・資料8 次回講習の方向性について

(2) 基礎講習の広報活動

- ・資料9 基礎講習の広報活動について

4 閉 会

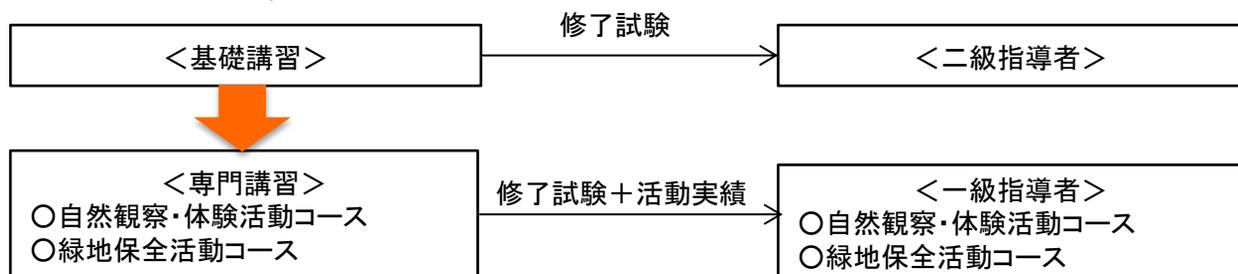
緑のボランティア指導者育成講座概要

1 目的

都民の自主的な活動を支援・促進していくため、自然観察や緑地保全などの知識や技術を持ち、都民やボランティアグループなどの求めに応じて、指導や助言を行う人材を育成することを目的とする。

2 概要

緑のボランティア指導者育成講座は、主な活動内容に応じて講習区分を設け、知事が認定及び認証を行う。



3 指導者に求める姿

【基礎講習】

基礎的な指導、助言及び単発的な企画の立案・運営等ができる程度

【専門講習】

高度に専門的な指導、助言及び継続的な企画の立案・運営等ができる程度

4 受講要件

【基礎講習】①及び②を満たす方

①都内に在住、在勤、在学、又は都内で緑のボランティア活動をしている18歳以上の方

②都内での緑のボランティア活動経験が年10日間以上で、かつ1年以上の実績がある方

【専門講習】両コース共通

東京都二級緑のボランティア指導者の認定を受けている方

5 受講修了

規定時間の8割以上受講した方を講習修了者とする。

講習区分	規定時間	講座修了者
基礎講習	36時間	29時間以上受講
専門講習	60時間	48時間以上受講

6 認定要件

【基礎講習】

基礎講習（指導者基礎コース）を修了し、かつ、修了試験に合格した方を「東京都二級緑のボランティア指導者」に認定

【専門講習】両コース共通

専門講習を修了し、かつ、修了試験に合格した方で、都内で指導者としての緑のボランティア活動経験が年20日間以上あり、その期間が通算して3年以上の実績がある方を「東京都一級緑のボランティア指導者」に認定

平成29年度基礎講習内容

日時・場所	科目	内容	満足度	時間
6/18 都庁	ボランティア活動の理念（講義） 10:00～15:00 4時間	<ul style="list-style-type: none"> ボランティアの定義・基本理念を理解する。 指導者の役割と責任を学ぶ。 組織の活性化と発展に向けた組織運営を学ぶ。 		
6/25 野山北・六道山公園	雑木林の設計と森づくり作業（実習） 10:00～16:00 5時間	<ul style="list-style-type: none"> 雑木林の管理手法について学ぶ。 保全活動・安全管理を実践する。 		
7/1 小峰公園	指導法の基本（実習） 10:00～16:00 5時間	<ul style="list-style-type: none"> 指導者として必要な知識・技術と効果的な指導法を学ぶ。 環境教育と解説の方法・体験学習法などを体験的に理解する。 		
7/15 福生市内川原等	自然の理解・自然観察の基本手法（実習） 10:00～16:00 5時間	<ul style="list-style-type: none"> 環境と生物の関係について実習を通して学ぶ。 観察結果のまとめ方と活用方法を理解する。 生物種の識別能力の向上を図る。 		
7/22 自然公園	自然公園管理の基礎（実習） 10:00～16:00 5時間	<ul style="list-style-type: none"> 東京都内にある自然公園について概要を学ぶ。 自然公園を巡回している東京都レンジャー及びサポートレンジャーの概要を学ぶ。 東京都レンジャー及びサポートレンジャーと共に、自然公園を管理するための巡回を体験する。 		
8/5 都庁	ネットワークづくり（講義） 13:00～16:00 3時間	<ul style="list-style-type: none"> 多様な主体とのネットワークの作り方を学ぶ。 他主体との交流・連携に必要なポイントを理解する。 ボランティアとしての実践的な情報収集・交換・連絡の方法を学ぶ。 		
8/26 都庁	自然環境行政（講義） 10:00～12:00 2時間	<ul style="list-style-type: none"> 東京都における自然環境行政の現状及び課題を学ぶ。 今後の行政施策の方向性と取組を学ぶ。 		
	応急手当・救命方法を身に付ける（実習） 13:00～16:00 3時間	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な応急・救命方法を学ぶ 三角巾を用いた応急処置法を実習する。 		
9/2 都庁	安全な活動を考える（講義） 10:00～15:00 4時間	<ul style="list-style-type: none"> 安全対策・安全管理について理解する。 危険予知の考え方を学ぶ。 緊急時の対処方法を学ぶ。 		
	修了試験 15:30～16:00 30分間			

平成29年度基礎講習の見直しについて

1 平成29年度の見直しについて

実習の充実

- ・基礎・専門講習修了生(H24~26)アンケート ⇒約4割が実習時間の増加を希望
- ・平成27年度指導者等育成委員会 ⇒より実践的な講習を増やす必要があると指摘



- ・「指導法の基本」(5時間)を座学から実習へと変更

(講義) インタープリテーションや体験学習に関する講義

(実習) 公園を利用した環境学習の素材探しや体験

指導者として必要な知識・技術と効果的な指導法を、より実践的に学ぶ機会を提供

2 平成29年度基礎講習概要

	講習概要	
	平成29年度	平成26年度
座学	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動の理念(4時間) ・安全な活動を考える(4時間) ・ネットワークづくり(3時間) ・自然環境行政(2時間) <p style="text-align: right;">計13時間</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動の理念(4時間) ・安全な活動を考える(4時間) ・ネットワークづくり(3時間) ・自然環境行政(2時間) ・<u>指導法の基本(5時間)</u> <p style="text-align: right;">計18時間</p>
実習	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>指導法の基本(5時間)</u> (場所:小峰公園) ・雑木林の設計と森づくり作業(5時間) (場所:野山北・六道山公園) ・自然の理解・自然観察の基本手法(5時間) (場所:福生市内川原) ・自然公園管理の基礎(5時間) (場所:自然公園(高尾地域)) ・応急手当・救急方法を身に付ける(3時間) (場所:都庁内) <p style="text-align: right;">計23時間</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・雑木林の設計と森づくり作業(5時間) (場所:野山北・六道山公園) ・自然の理解・自然観察の基本手法(5時間) (場所:福生市内川原) ・自然公園管理の基礎(5時間) (場所:自然公園(高尾地域)) ・応急手当・救急方法を身に付ける(3時間) (場所:都庁内) <p style="text-align: right;">計18時間</p>

平成29年度基礎講習受講者について

1 平成29年度受講者

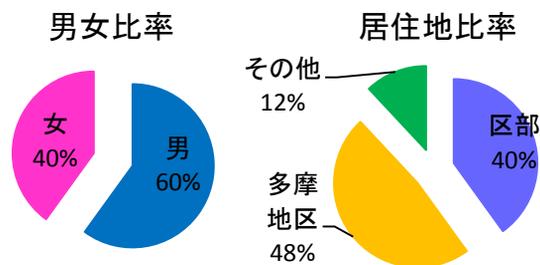
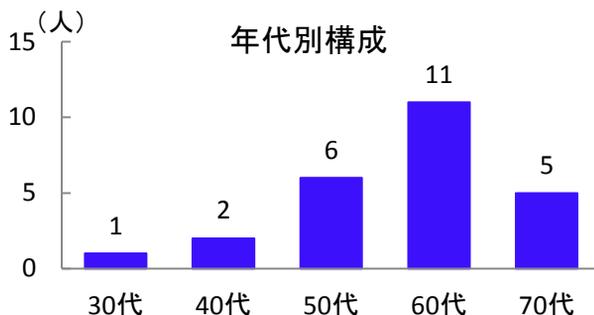
・計25名(内、2名未修了)

(参考) 平成26年度受講者
指導者基礎コース6名(内、1名未修了)

・平均年齢61.6歳

・年齢構成・男女比率の傾向は従来どおり

・平成26年度と比較し、
区部からの参加者が大きく増加



(参考) 平成26年度 多摩地区100%

2 受講者情報

受付番号	居住地	性別	年齢	主な活動実績	得意な活動分野
1	区部	男	60代	自然観察会ボランティア	緑地保全、自然観察
2	多摩地区	男	60代	公園ボランティア	緑地保全
3	多摩地区	男	70代	自然公園ボランティア	森林保全、自然体験、自然観察
4	区部	男	70代	区ボランティア	緑地保全、自然観察、自然体験
5	多摩地区	男	50代	自然公園ボランティア	自然観察、自然体験
6	区部	男	60代	公園ボランティア	緑地保全
7	区部	男	50代	NPO、保全地域ボランティア	緑地保全
8	多摩地区	女	60代	農業ボランティア	自然観察
9	多摩地区	男	60代	森林・緑地保全講習会参加	自然観察、自然体験
10	多摩地区	男	70代	公園ボランティア	緑地保全
11	多摩地区	男	40代	保全地域ボランティア	緑地保全、自然観察
12	その他	男	30代	農業ボランティア	緑地保全、森林保全
13	多摩地区	男	60代	保全地域ボランティア	緑地保全、森林保全、自然観察
14	区部	女	50代	区ボランティア	緑地保全
15	その他	男	50代	体験プログラム	緑地保全
16	多摩地区	女	50代	保全地域ボランティア	緑地保全
17	区部	女	60代	自然観察会ボランティア	緑地保全、自然観察
18	多摩地区	男	70代	農業ボランティア	緑地保全、森林保全
19	区部	男	60代	保全地域ボランティア	緑地保全、森林保全
20	区部	男	50代	森林ボランティア	緑地保全、森林保全
21	区部	女	40代	農業ボランティア	記載なし
22	多摩地区	女	60代	緑地保全ボランティア	緑地保全、自然体験、自然観察
23	多摩地区	男	70代	保全地域ボランティア	緑地保全、自然体験
24	その他	男	60代	森林インストラクター	自然体験
25	区部	女	60代	自然観察ボランティア	自然観察

<全体の傾向>

身近な公園や緑地、保全地域で緑地保全活動や自然観察を行っている申込者が多い。
保全地域ボランティアや体験プログラムの経験者も6名参加

平成 2 9 年度専門講習内容

<自然観察・体験活動コース、緑地保全活動コース共通>

日時・場所	科目	内容	満足度	時間
10/22 NSビル	専門講習ガイダンス（講義） 13:00～14:00 1時間	<ul style="list-style-type: none"> 目的や講習体系について学ぶ。 「実践活動」について説明する。 		
	行政との協働（講義） 14:00～16:00 2時間	<ul style="list-style-type: none"> 行政との協働に必要な事柄を学ぶ。 ボランティア活動の展開と広報を考える。 		
10/28 野山北・六道山公園	緑地保全活動に向けた植生調査（実習） 10:00～16:00 5時間	<ul style="list-style-type: none"> 緑地の植生調査を行う。 現状分析を基に、自然回復に向けた保全活動を考える。 		
11/4 八王子滝山里山 保全地域	順応的管理手法での保全（実習） 10:00～17:00 6時間	<ul style="list-style-type: none"> 自然環境に配慮した順応的管理を学ぶ。 生物多様性の保全と管理・利用のバランスを理解する。 		
12/9 小山内裏公園	生き物調査の進め方（実習） 10:00～14:00 3時間	<ul style="list-style-type: none"> 観察結果のまとめ方と活用方法を理解する。 生物種の識別能力の向上を図る。 		
	「実践活動」中間相談会（ワーク） 14:00～15:00 1時間	<ul style="list-style-type: none"> 実践活動のテーマを確定させる。 取組の方針をグループで共有し、相互にアドバイスする。 		
1/13 二庁ホール	安全管理・安全対策（講義） 10:00～15:00 4時間	<ul style="list-style-type: none"> 活動における安全管理の必須事項を学ぶ。 運営側・企画側・参加者の立場の違いによる安全管理を学ぶ。 		
1/20 二庁ホール	NPOの運営実態・ミッションの形成 （講義）10:00～15:00 4時間	<ul style="list-style-type: none"> NPOの運営実態と課題について理解する。 活動や組織運営の長期的な方針作りを学ぶ。 		
	「実践活動」最終相談会（ワーク） 15:00～16:00 1時間	<ul style="list-style-type: none"> 実践活動に取り組むうえで困っている課題を解決する。 各自が準備している発表資料のブラッシュアップを行う。 		
2/4 二庁ホール	「実践活動」の発表とその評価	<ul style="list-style-type: none"> 実践活動の発表を行い。講師より講評をもらう。 		

平成 29 年度専門講習内容

<自然観察・体験活動コース>

日時・場所	科目	内容	満足度	時間
11/25 神代植物公園	自然観察体験活動の企画・運営（実習） 9：30～16：30 6時間	<ul style="list-style-type: none"> 自然観察体験活動の企画・運営における必須事項を学ぶ。 活動の企画・運営・振り返りを演習する。 		
12/2 石神井公園	コミュニケーション技術・参加者への伝え方 （実習）10：00～17：00 6時間	<ul style="list-style-type: none"> 組織内外に対するコミュニケーション技術を学ぶ。 インタープリテーション技術を学び、伝え方の演習を行う。 		
12/16 八王子市長池公園	自然観察体験活動の実践（子供向け） （実習）10：00～16：00 5時間	<ul style="list-style-type: none"> 子供という対象者を理解する。 自然に親しむことを目的としたワークショップを学ぶ。 		

<緑地保全活動コース>

日時・場所	科目	内容	満足度	時間
11/19 高尾の森自然学校	緑地保全活動の実践（実習） 10：00～17：00 6時間	<ul style="list-style-type: none"> 緑地保全活動の中での安全管理を学ぶ。 地域と連携した保全活動を学ぶ。 		
11/26 七国山緑地保全地域	企業や学校との体験活動（実習） 10：00～17：00 6時間	<ul style="list-style-type: none"> 対象を考えた指導方法を演習する。 外部との協働の進め方を学ぶ。 		
12/23 東豊田緑地保全地域	緑地における保安全管理と利活用（実習） 10：00～16：00 5時間	<ul style="list-style-type: none"> 緑地保全活動の意義や生態系に及ぼす影響について学ぶ。 保全活動を実践しながら、管理手法と活用方法を考える。 		

平成29年度専門講習の見直しについて

(1) 実習の充実

- 平成27年度指導者等育成委員会
⇒ 自ら学ぶだけでなく、「教える」ことを実践する機会の不足について指摘



より実践が重視される次の2科目を、座学中心から実習中心へ変更予定

	講座名	26年度実績	見直しの方向性
体験活動 自然観察	コミュニケーション技術・参加者への伝え方 (6時間)	・「インタープリテーションの定義、構造、技術」等に関する講義+ワーク(古瀬先生) ・場所:都庁	・指導方法について座学だけでなく実習を通じて習得 ・場所:石神井公園
緑地保全	企業や学校との体験活動 (6時間)	・「保全活動のコーディネーターに」講義(園田先生) ・場所:新宿NSビル	・様々な対象者に応じた保全活動の指導方法を実習を通じて習得 ・場所:七国山緑地保全地域

(2) 講習内容の見直し

- 平成26年度専門講習修了生アンケート
⇒ 一部科目の内容重複が指摘された。

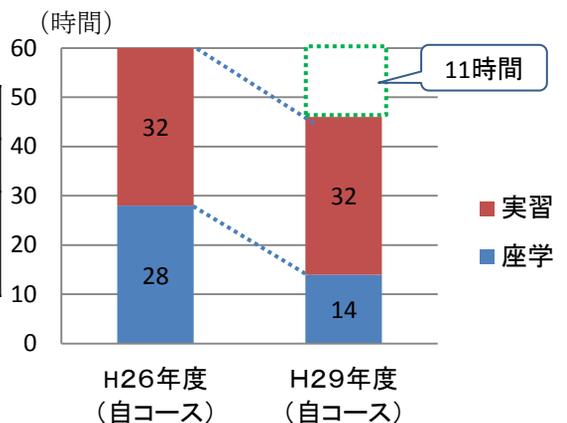


集約可能な科目は統合して整理し、講習時間の圧縮を図った。

(統合例)

平成26年度		平成29年度	
科目	時間	科目	時間
行政との協働	2	行政との協働	2
効果的な広報	2		

「効果的な広報」を「行政との協働」へ統合



平成29年度専門講習の見直しについて

(3) 実践活動の導入

- 平成24～26年度基礎・専門講習修了生アンケート
⇒ 講習時間について約2割が長いと回答している。



- テーマに沿った事前・事後学習課題を自主研究・調査として導入し、講習時間の一部とみなすことで、参加者の企画・調整力の向上と負担（時間・コスト）軽減を同時に実現

○ テーマ

参加者が以下の①又は②を選択し、イベントの企画や団体の活動計画の策定等を通じて、指導者としての知識・スキルを実践的に学ぶ。

- ① 自然観察・体験活動又は保全活動（3時間程度）の企画及び実践
- ② 安全管理や事業管理など、組織運営に関する計画作成と実践



○ 「実践活動」成果

<受講生の企画一覧と実施状況>

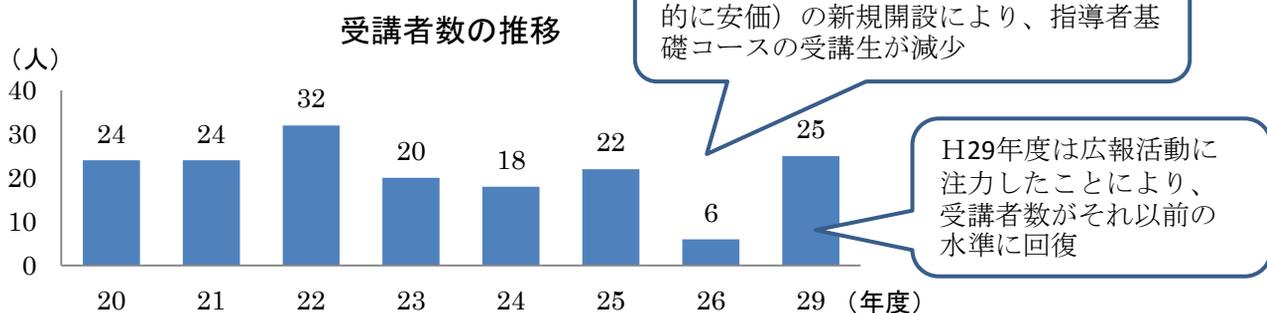
	題材
1	冬の奥多摩で自然観察ハイキングの企画
2	森のたんけん(場所未定)の企画
3	利島村登山道での保全活動の企画
4	雑木林での植生調査の企画
5	生垣手入れボランティア団体の設立企画
6	雑木林ボランティアの新規会員定着に向けた改善策の検討
7	竹を活用したキャンドル作り教室(子供向け)の企画
8	保全地域での自然観察会の企画
9	保全地域での活動計画の見直し
10	高尾山での森林教室(子供向け)の企画
11	雑木林での落葉かきイベントの企画

- ① 11人中8人が、その実践を前提とした企画立案や活動計画の見直しを実施し、上級指導者に求められる活動等の企画力を醸成することができた。
- ② 実践活動制度の導入により、企画の実施に向けて、受講生が所属団体の会員と話し合いを行ったり、講座の知識を共有するなど、現場での調整力を身につける機会が創出された。

受講者の推移と受講意向

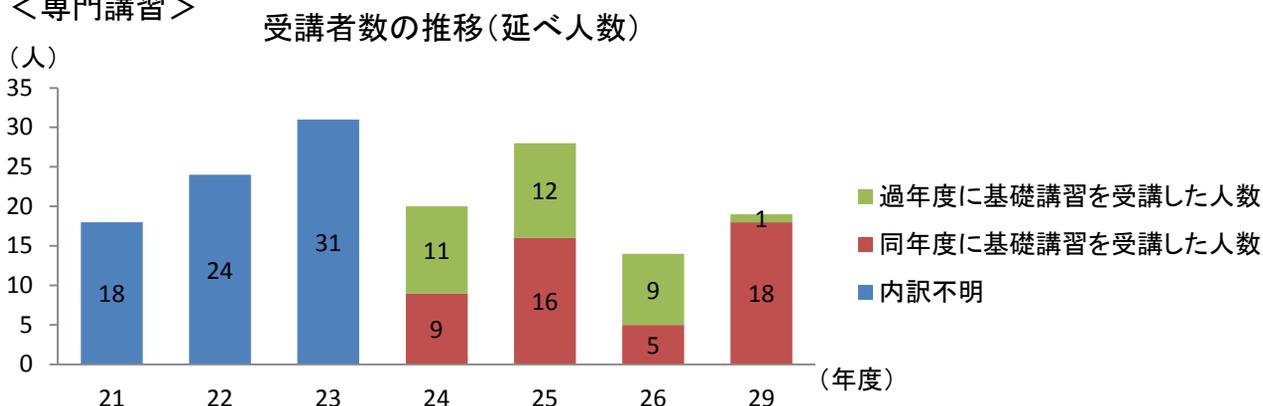
1 受講者数の推移

<基礎講習>



受講者数は例年並みの25名まで回復したものの、講習定員の半分に留まっている。

<専門講習>



講座が3年に1度になったことに伴い、平成29年度は過年度に基礎講習を受講した方の参加が減少した。

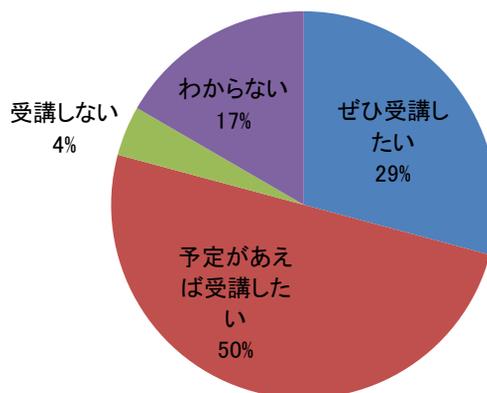
2 基礎講習受講生の専門講習の受講意向

H29年度基礎講習受講者アンケート

ぜひ受講したい	7
予定が合えば受講したい	12
受講しない	1
わからない	4
(回答数)	24



引続き専門講習を受講した人数：12名
(修了生の約半数、例年と同じ傾向)



「予定が合えば受講したい」と答えた人の一部は、専門の日数の多さから都合がつかず、受講を断念している。

次回講習の方向性について

1 受講年度の分散化

平成29年度は、基礎講習を6月から9月、専門講習を10月から2月に実施した。

⇒ 基礎講習から専門講習を続けて受講する方は、年間を通じて講習を受け続けることになる。



- ・令和2年度に基礎講習、令和3年度に専門講習を実施することで、受講頻度を低減
- ・活動しやすい時期に実習科目を充てることが可

2 実践活動の導入・拡充

当講座の講習時間が長いため、受講の障壁となっている可能性がある。

(参考) 民間講座との比較

	指導者育成講座 (基礎)	指導者育成講座 (専門)	森林インストラクター 養成講習	自然観察指導員 講習会	里山保全ボランティアの若手現場 リーダー養成研修 (アドバンスコース)
主催	東京都	東京都	(一財)日本森林 インストラクター協会	(公財)日本自 然保護協会	NPO法人よこはま 里山研究所 他
講習 時間	36時間(8日)	49時間(10日)	3日	1泊2日	10時間(2日)
費用	14,400円	24,500円	19,000円	20,000-35,000円 (食費・宿泊込)	50才↓1,000円 50才↑10,000円



実践活動を導入・拡充し、指導者としての知識・スキルの習得を強化するとともに、より多くの方が受講できるよう、講座の質を維持しながら受講者の時間面での負担を軽減していく。

(基礎講習導入例)

科目	29年度 講習時間	次回 講習時間	理由
ボランティア 活動の理念	4時間	3時間	受講者アンケート結果
安全な活動を 考える	4時間	3時間	
自然環境行政	2時間	1時間	講師意見
自然公園管理 の基礎	5時間	0時間	サポートレンジャー認定 講座と重複

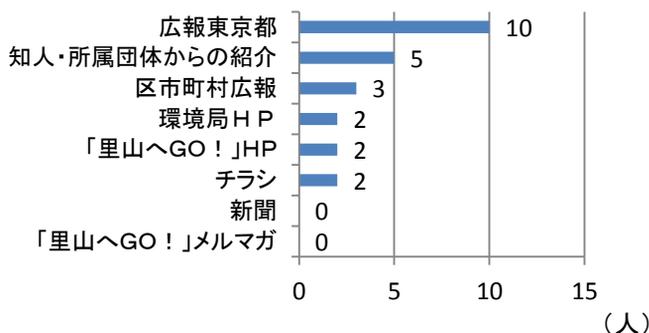
8時間削減
↓
6時間を実践活動
2時間を発表へ

基礎講習の広報活動について

平成29年度は、基礎講習受講生の募集のため、主に以下の広報活動を行った。

- ・ 広報東京都4月号への掲載
- ・ 区市町村広報誌への掲載
- ・ 環境局Facebook、メールマガジンへの掲載
- ・ 公共施設での募集チラシ配架
- ・ 「里山へGO！」HP掲載、メールマガジン配信
- ・ 保全地域活動団体への周知メール配信
- ・ 読売新聞 告知欄掲載

受講生が講座を知った方法



効果の高かった広報 ⇒ **広報東京都への掲載、保全地域活動団体への周知**
 効果の低かった広報 ⇒ 募集チラシの配架

- ・ 効果の高かった広報は今後も継続し、特に保全活動団体への周知は早めに実施
- ・ 合計500部以上送付したにも関わらず効果が低かったチラシの配架は、送付先や送付部数を精査

「里山へGO！」を活用した広報活動の検討

- 平成27年に、森林・緑地保全活動情報サイト「里山へGO！」を開設
- 登録者数は1,724名を超えるなど、新たなボランティア人材の掘り起しに一定の成果を挙げている。

(実績) ・ 「里山へGO！」登録者数1,724名 (H30年度末)
 ・ 保全地域体験プログラム参加者数 延べ2,420名 (H27.7~31.3末)

- 新たに掘り起こしたボランティア人材を指導者に育成することで、質の高い保全活動の促進が期待される。

